（第３種郵便物認可）

6/6 長崎新聞

支援 何できる？

長崎 学生らフォーラム

長崎で 東日本大震災 長崎から

東日本大震災被災地への支援を話し合う市民フォーラムが5日、長崎市文教町の長崎大中部講堂であり、大学生や社会人ら約150人がそれぞれの立場で自分にできることを考えた。

長大生らでつくる被災地支援サークル「長崎Sip-S（シップス）」（野口和暉代表）が企画。パネル討議「いま、ここからできること」では、長崎大医学部5年の石川大平さんを座長に被災地支援に携わる市民団体の代表ら5人が登壇。活発な議論を交わした。

NPO法人島原ボランティア協議会の旭芳郎理事長は救援物資について「現地が必要とする物資の一歩先を読む想像力が必要」と指摘。野口代表は大学生が果たす役割に関し「学生には時間と体力がある。これをもっと生かすべき」と訴えた。ほかの出席者からは継続的支援のため「（被災地のことを）いつも気に留めておくことが大切」「できることを積み重ねるのが重要。個人の力は大きい」などの意見が出た。

討議に先立ち、被災地でボランティア活動などに従事した旭さんや長崎大関係者が現地の状況を報告。片峰茂学長は「この国に極めて大きな困難が待ち受けている。自ら考え、行動する時代だ」とあいさつした。

（向井真樹）

東日本大震災被災地支援を考えた市民フォーラム＝長崎市、長崎大